

報道関係各位

2017年2月6日

2017年3月期 第3四半期決算（IFRS） 事業利益は前年同期比9%増の738億円

LIXIL Water Technologyの水まわり事業、国内外で順調に成長

株式会社 LIXIL グループ（本社：東京都千代田区、社長：瀬戸欣哉、以下 LIXIL グループ）は本日、2017年3月期第3四半期決算^{※1}を発表しました。売上高は、前年度に実施した事業売却や為替変動、LIXIL Building Technology（LBT）で進めている選別受注の影響を受け、前年同期比7%減の1兆3,337億円となりました。

事業利益は、好調な第3四半期（3カ月）に支えられ、前年同期比9%増の738億円となりました。第3四半期（3カ月）においては、LIXIL Water Technology（LWT）、LIXIL Housing Technology（LHT）、LIXIL Kitchen Technology（LKT）および住宅・サービス事業等で、2桁以上の増益を達成しました。また、LBTでは、事業売却の効果と日本事業の利益率改善により黒字に転じました。

LIXIL グループでは、効率的な事業運営体制の強化を引き続き推進しており、その一環として、2016年11月より LIXIL グループ社長兼 CEO を務める瀬戸欣哉が、LHT を CEO として直轄する体制へと移行し、LHT の日本事業を統括する LHT Japan や、国内外のマーケティング機能を集約したマーケティング本部を新設しました。

営業利益は前年同期比14%増の693億円、当期利益^{※2}は457億円となりました。これは、事業利益の増加と前年度の一過性費用剥落によるものです。

2017年3月期通期業績予想に関しては、今後のさらなる収益力強化に向けて進めている在庫、設備等資産の継続的な見直しによる、一過性費用計上の可能性に備える必要があるため、据え置きとします。

※1 国際会計基準（IFRS）に基づく。

※2 株主に帰属する四半期利益。

LIXIL グループ社長兼 CEO 瀬戸欣哉のコメント

「本年度初めから導入してきた様々な取り組みの成果が表れ、収益力向上につながっています。また、LIXIL グループでは、お客さまのニーズを理解し、より迅速に対応できる体制の強化を計画的に進めています。こうした新たな動きの一つとして、デジタル分野を含めたマーケティング活動を横断的に統括するマーケティング本部を設置しました。2017年は、当社の主要な事業展開を開始してから50年となる節目の年であり、事業のさらなる活性化につなげてまいります」

各テクノロジー部門の第3四半期業績

LIXIL Water Technology（LWT） は LIXIL、INAX、GROHE、American Standard などのグローバルブランドを展開しており、売上高は前年同期比3%減の4,912億円、現地通貨ベースでは4%の増収となりました。事業利益は14%増の536億円、事業利益率は11%となりました。第3四半期累計（9カ月）の現地通貨ベースでの地域別売上を見ると、北米地域における American Standard Brands（ASB）が前年同期比9%増、欧州・中東・アフリカ（EMEA）地域で GROHE が前年同期比7%増、アジア地域の売上の約4割を占める中国では18%増と好調な伸びを見せました。また、日本市場においても、第3四半期（3カ月）に売上高が2%成長しました。加えて第3四半期累計の事業利益では、北米の ASB が60%増、中国で50%増、欧州 GROHE が25%増と増益を達成しました。為替換算で逆風を受けているものの、売上増加や商品ミックスの改善によってその悪影響を吸収しました。

LIXIL Housing Technology (LHT) は、売上高が前年同期比 4%減の 4,086 億円、事業利益は 1%減の 331 億円となりました。上期に実施したハイビック株式会社の売却と為替変動の影響に加え、前年の政府の省エネ住宅ポイントによる効果の剥落も減収の要因として挙げられます。売上高は減少したものの、事業利益はコスト低減によって第 3 四半期（3 カ月）では 12%の増益となり、期間累計の事業利益率は 8%となりました。

LIXIL Building Technology (LBT) は Permasteelisa Group を含んでおり、売上高は前年同期比 26%減の 1,938 億円となり、事業損失 3 億円を計上しました。2016 年 3 月の上海美特幕墙有限公司の売却や為替変動の影響、近年の選別受注や日本で物件完工端境期にあることが影響し、減収となりました。しかしながら、事業売却の効果や日本事業の利益率改善により、第 3 四半期（3 カ月）の事業利益は黒字を確保しました。

LIXIL Kitchen Technology (LKT) の売上高は、前年同期比 2%増の 853 億円となり、事業利益は 79%増の 35 億円になりました。日本では、高価格帯のシステムキッチン「リシェル」シリーズが売上を牽引し、中国の合弁パートナーとの協業も売上拡大に貢献しました。LKT では売上増加と生産性向上によって事業利益も改善し、事業利益率は 4%となりました。

流通・小売り事業の売上高は、前年の建デポ事業の分社化の影響から、前年同期比 8%減の 1,330 億円となりました。事業利益については新店出店費用により前年同期比 8%減の 75 億円となり、事業利益率は 6%でした。**住宅・サービス事業等**は、新築着工の増加に伴い、売上高が 11%増の 487 億円となりました。事業利益は、販売管理費の削減と増収および前年度の一過性コストがなくなったことから、25%増の 35 億円となり、事業利益率は 7%でした。

■ LIXIL、LIXIL グループについて

LIXIL について

株式会社 LIXIL は、戸建住宅・マンションからオフィス・商業施設などの非住宅向けに、多岐にわたる建材・設備機器および幅広い住関連サービスを提供するグローバル企業です。2011 年に国内の主要な建材・設備機器メーカー 5 社が統合して誕生しました。以後、American Standard Brands、GROHE、Permasteelisa Group といった海外企業の統合により、世界的ブランドを傘下に収め、現在、LIXIL Water Technology、LIXIL Housing Technology、LIXIL Building Technology、LIXIL Kitchen Technology の 4 つのテクノロジー事業に加え、日本における営業活動を担う LIXIL ジャパンカンパニーを軸に幅広く事業を推進しています。

LIXIL グループについて

株式会社 LIXIL グループ（証券コード：5938）は、中核事業会社である株式会社 LIXIL をはじめ、株式会社 LIXIL ビバ、株式会社 LIXIL 住宅研究所などを傘下に持つ持株会社で、東京証券取引所および名古屋証券取引所に上場しています。多岐にわたる建材・設備機器の製造、販売に加え、ホームセンター事業や住宅フランチャイズチェーンの運営、不動産サービスなど、幅広い住関連サービスを展開しています。2016 年 3 月期の連結売上高は 1 兆 8,905 億円*です。

※国際会計基準（IFRS）ベース